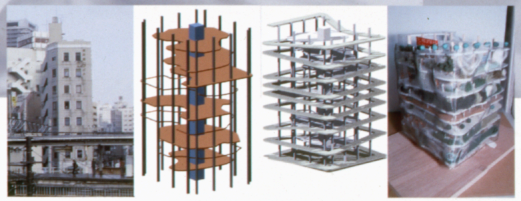
ATRIUM

これは再生のプログラムである

IT革命によってオフィススペースは今までの2/3に削減される
削減された1/3をアトリウムにする



老朽化したオフィスビル　IT革命によってオフィススペースが削減される　新しい動線となるジグラットをまわす　ジグラットに木を植え、人間の皮膚のような呼吸する外皮となる

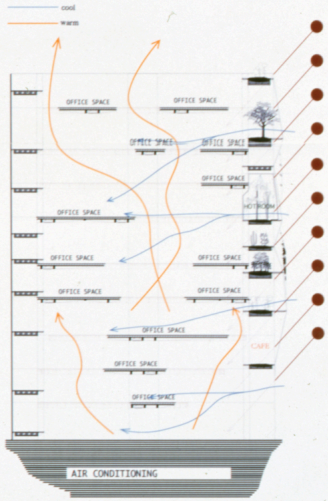
現代の日本において、経済的事情及び構造的理由により多くの老朽化したオフィスビルはとりこわされてはまた建て直されるという循環の中に存在する。この資源の欠乏した時代にそのような状況は好ましくないものであり、老朽化したオフィスビルの再生利用が望まれるべきである。

老朽化したビルを再生するにあたって、ただ構造を補強したり、内装を塗り替えるだけでは外見上の再生に過ぎず、それはむしろ保存に定義されるべきであろう。真の再生を行うためには過去のものを一新することのできる要素を取り込まなくてはならない。ここではその要素としてアトリウムを用いる。

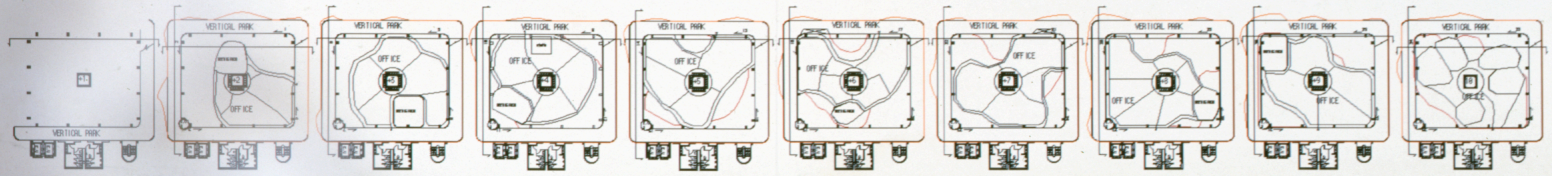
２０世紀から２１世紀にかけて特に大きな変貌をきたすであろうものは情報である。その大きな変革はIT革命とよばれ現在はほんの兆しを見せているに過ぎない。しかしそのわずかな兆しからでさえ読み取れる変化として、仕事のモバイル化によるオフィススペースの縮小化がある。そしてその縮小化は既存のオフィススペースの1/3をも削減すると言われている。

その削り取られるべき1/3をアトリウムにすることによってオフィスを再生する。

しかしこれまでのような中央に掘り抜かれるアトリウムを適応することは構造的にも計画的にも困難である。それに最も適応するアトリウムは端をを削り取ることによって出来るアトリウムであるだろう。またその時、異なった用途に用いられるフロアすべてを同じ割合で削るのではなく、各フロアごとに情報革命により必要が無くなった面積の分だけを削るのである。



ジグラット



各階平面図